



環境学習会

竹からはじまる！脱炭素チャレンジ ～放置竹林を活かした竹炭づくりと資源循環～

ゲストスピーカー



深澤 義則 氏

温室効果ガス削減推進市民ネットワーク代表

無煙炭化器の開発企業であるモキ製作所在籍時の2012年に島根県安来市で見渡す限りの竹の海に衝撃を受け“竹は無尽蔵の持続可能な資源になるのではないか！”と熱い想いが生まれ、以降「竹・炭・温室効果ガス削減・草の根」を主軸とした循環型炭素固定社会の構築を目指し、活動されている。

第一部（10:00～12:00）

講演

『放置竹林の持続可能な資源化ループの構築』

皆さんの周りには、放置竹林や果樹剪定枝、林地残材など、活用されていない資源が豊富にあります。今回は「竹」の素晴らしさと可能性についてお話しします。

厄介者、竹害とまで言われている放置竹林も、見方を変えれば食、炭、エネルギー、工芸、日用品、その他マテリアルと竹は万能で、しかも農薬、肥料も無しに生えてくる持続可能な无尽蔵の資源です。

放置竹林の多面的多層的な資源化ループを具体的な事例を交えながらご紹介いたします。

第二部（13:30～16:00）

実演

『無煙炭化器を用いた竹炭づくり』

無煙炭化器を使った竹炭づくりを実演します。また、竹炭づくりを通じて、温室効果ガスの削減にどのようなつながるのか、解説します。

2026.11.14[土] 10:00-16:00（受付開始9:30～）

場 所 日野町林業センターホール
日野町河原一丁目1番地

申 込 Tel. 0748-52-6578

参加費 無料

定 員 50名 程度

電話もしくは右のQRコードを読み取り、お申し込み下さい。

定員に達し次第、募集を締め切らせていただきます。



日野地区 地球温暖化防止活動（CO2 ネットゼロまちづくり）宣言

今、世界各地で過去に例を見ない規模の寒波、熱波、干ばつ、大雨による洪水、台風などが頻発し、被害地域では多くの人々が生命（いのち）を脅かされ、生活（くらし）の危機に瀕しています。

日本でも、毎年のように集中豪雨が発生し、洪水や土砂崩れによる被害が発生する一方、夏には猛暑日が頻繁に出現し熱中症による死者も増加しています。

このような異常気象の原因のひとつに人間の社会経済活動から生じる二酸化炭素（CO2）など温室効果ガスによる地球温暖化が引き起こす気候変動があると言われてい

ます。
世界では、平成27年(2015年)の気候変動に関する国際連合枠組条約第21回締結国会議（COP21）でパリ協定を採択し、各国が21世紀後半に人為的な温室効果ガスの排出を実質ゼロにすることを目指して取り組みを進めています。

滋賀県でも、令和4年(2022年)4月に「滋賀県CO2 ネットゼロ社会づくりの推進に関する条例」が制定され、温室効果ガスの排出量を令和32年(2050年)までに実質的にゼロにすることが目標とされました。

日野町は、山や川などの自然資源に恵まれ、古くから城下町、日野商人による商業の街として発展してきたまちで、日野地区は豊かな田園風景の中に歴史的な遺産が多くあり、伝統的な町並みや祭りが保存されていることから安心して暮らしやすい地域です。

しかし、世界規模で発生する異常気象を目にし、聞く時、現在の暮らしやすい地域が将来に渡って維持できるのか不安になります。私たちの子ども、その子どもが生まれ育つ未来に向け、安心して暮らせる地域を維持し、残していくことが必要と痛感せざるを得ません。

滋賀の先達に「自覚者は責任者である」という言葉があります。問題に気づいた者が、まず問題解決に向けて自ら取り組む責任があるとの意味です。異常気象の原因のひとつが社会経済活動から生じる温室効果ガスによる地球温暖化であることを知った日野地区の私たちは、地球温暖化の問題を自分のことと考え、自らが暮らしの中で、次のスローガンの基に「地球温暖化防止活動（CO2 ネットゼロまちづくり）」に取り組むことを宣言します。

「はじめるのは、き・み・で・す」

き（きづいたとき）、み（みちかなところで）、で（できることから）、す（すぐに）

令和4年(2022年)11月13日

日野地区運営協議会

※日野地区運営協議会は、日野公民館を拠点に活動する住民団体や個人で構成され、地区内の住民の方や団体の情報交換と交流・連携を促進し、自治活動の総合的な発展を目的に活動しています。